

IV 事業の状況

1 相談受付の状況

(1) 全体概況

令和4年度の群馬県全体における相談受理件数は12,047件で、対前年度比16件(0.01%)の減少となっている。

また、最近10年間の相談受理件数の推移は図1-1のとおりである。総件数は平成16年度に大きく増加しそれ以降、高い水準で推移している。さらに、経路別受理件数の内訳は、図1-2のとおりであり、家族・親戚からが約半数を占めている。この経路は障害相談や育成相談に関するものが多い。

[統計資料:表1、2参照]

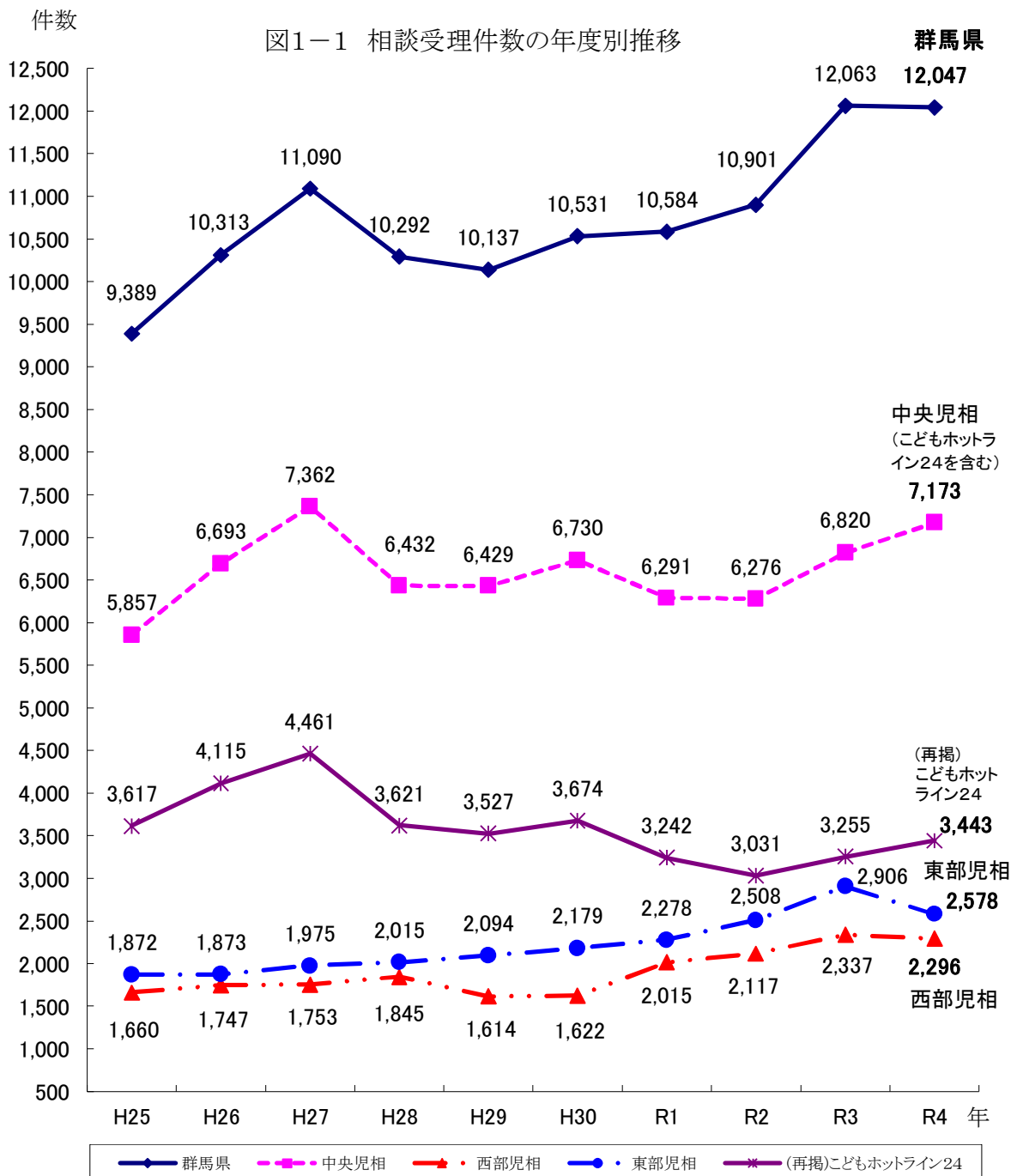
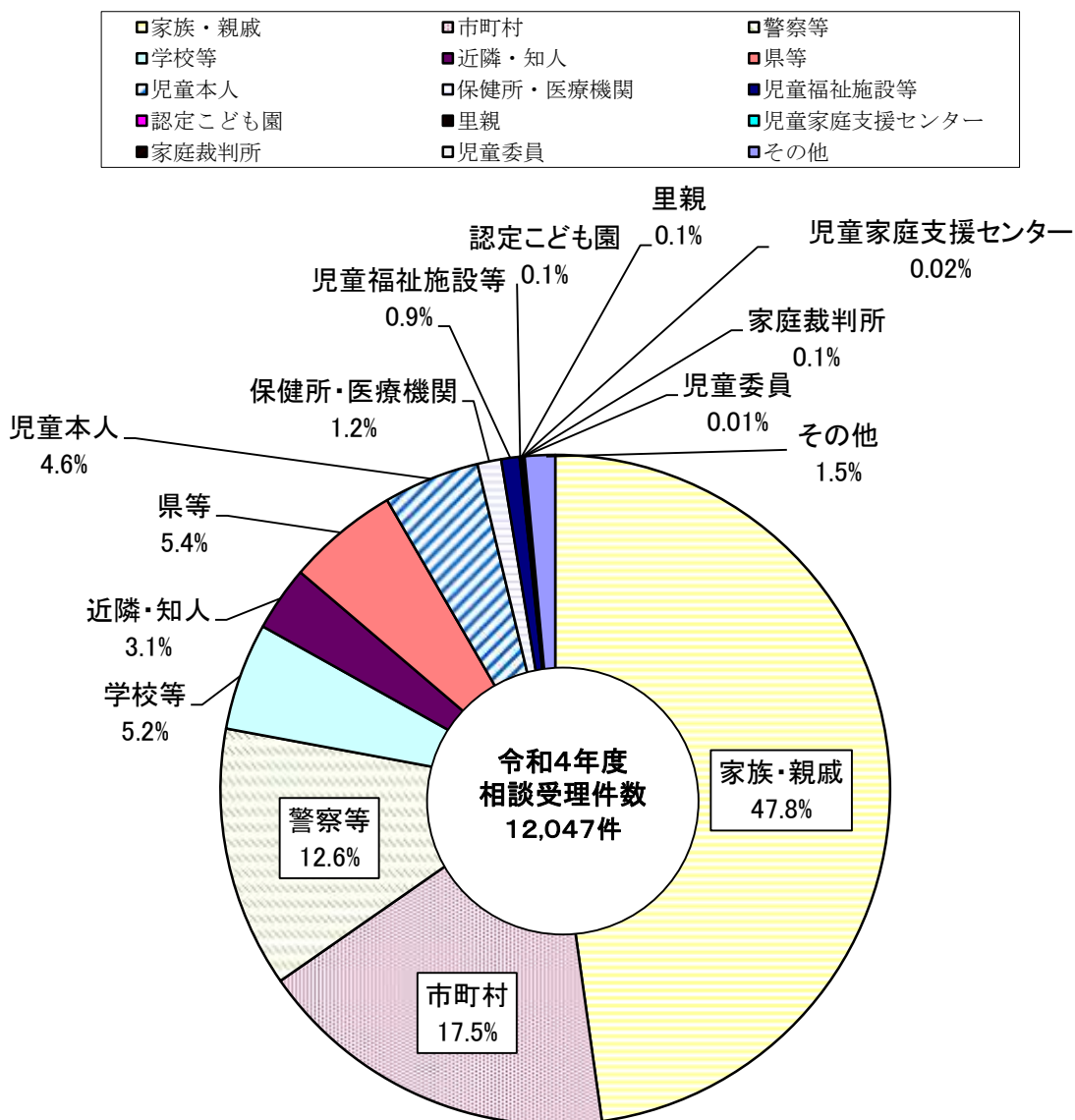


図1-2 経路別受理件数



	家族・親戚	市町村	警察等	学校等	近隣・知人	県等	児童本人	保健所・医療機関
中央児相	3,973	530	396	199	126	162	509	37
北部支所	277	439	180	65	47	64	6	18
西部児相	647	458	523	157	102	240	34	34
東部児相	858	687	419	203	103	183	10	50
群馬県	5,755	2,114	1,518	624	378	649	559	139

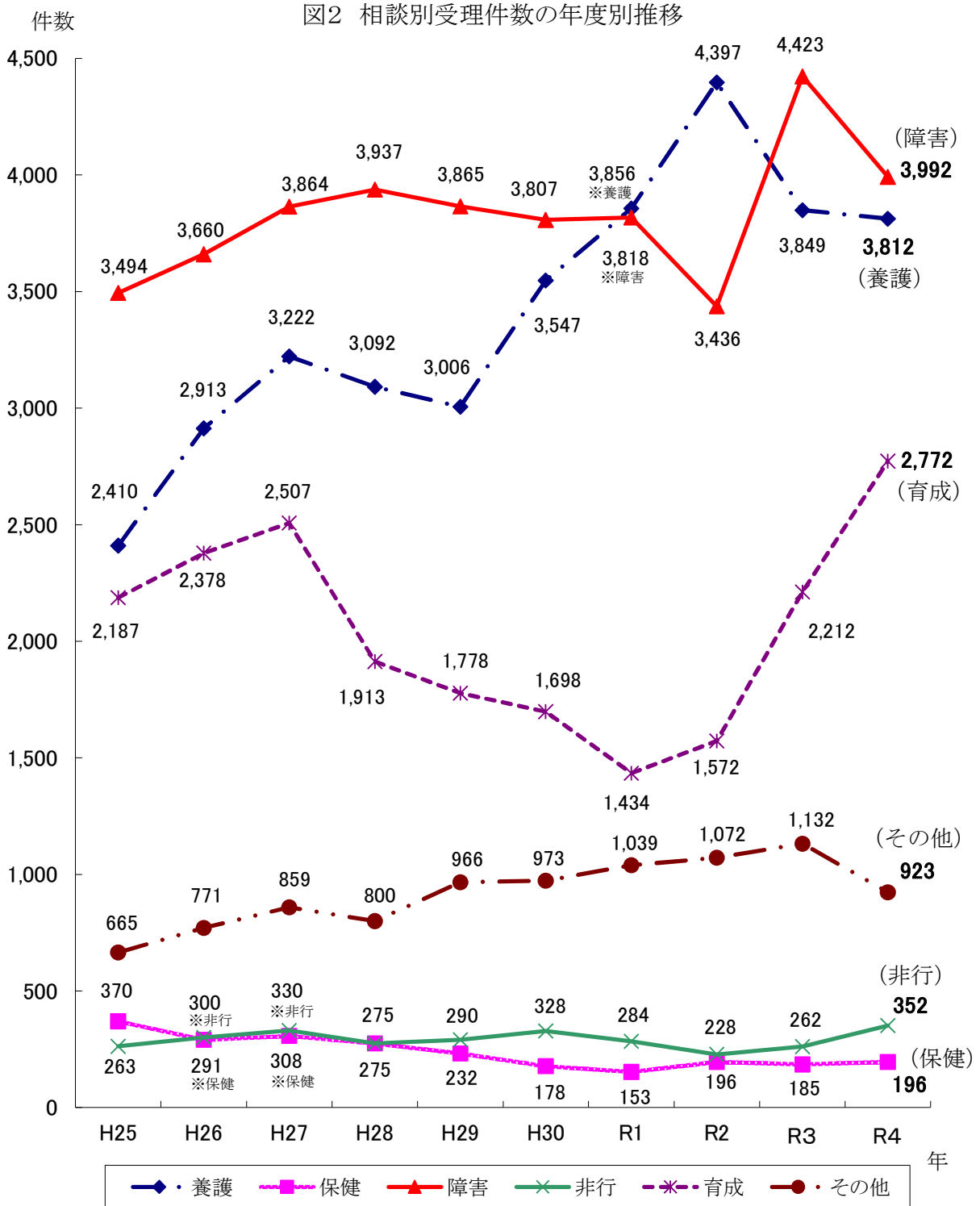
	児童福祉施設等	認定こども園	里親	児童家庭支援センター	家庭裁判所	児童委員	その他	計
中央児相	38	1	2		2	1	61	6,037
北部支所	9	6	3				22	1,136
西部児相	25		4	3	2		67	2,296
東部児相	34		2		3		26	2,578
群馬県	106	7	11	3	7	1	176	12,047

(2) 相談別受理状況

最近10年間の相談別受理件数の推移(図2)は次のとおりである。

令和4年度は、前年度と同程度の相談件数であった。相談種別ごとの増減について、非行相談の増加率が約34%と最も大きく、続いて育成相談の増加率は約25%であった。
一方、養護、障害相談については、前年度と比べ相談件数が減少となった。

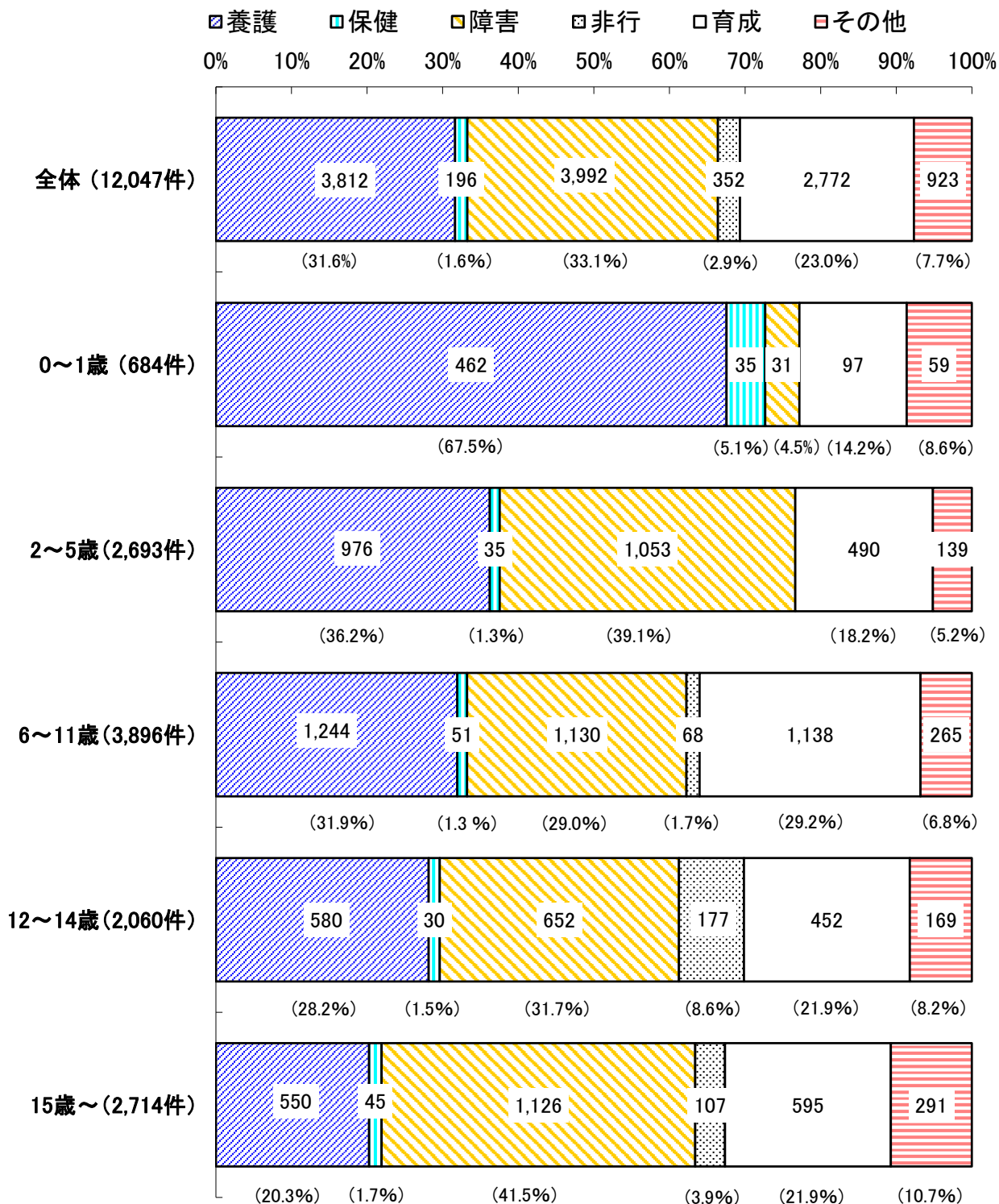
[統計資料:表2参照]



(3) 年齢別受理状況

児童相談所が令和4年度に受理した相談件数について、児童の年齢層別に相談内容別構成割合を示したものが下図である。この図に見るように、各年齢層によって相談内容の構成割合が異なる。例えば、0～1歳は、養護相談(虐待相談を含む)が約7割を占め、保健相談の割合も他の年齢層に比べて高い。2～5歳以上は障害相談の割合が高くなり、また、12歳以降においては非行相談の割合が高くなっている。

図3 年齢別の相談内容別構成割合



(4) 虐待相談

令和4年度の虐待相談は、前年度比68件(+3.6%)増の1,977件となり、令和2年度の相談件数に次ぎ過去2番目に多い件数となっている。

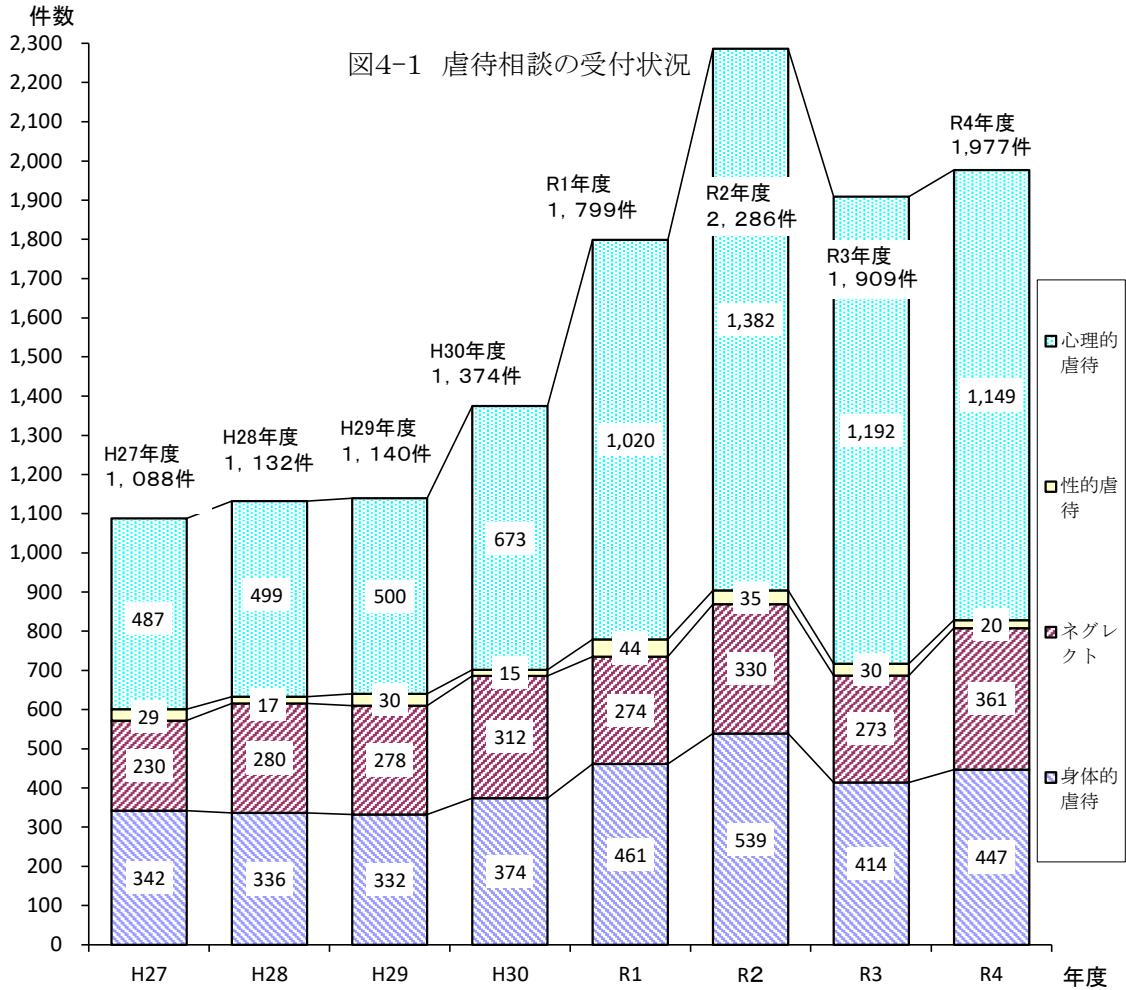


図4-2 虐待相談の経路(令和4年度:1,977件)

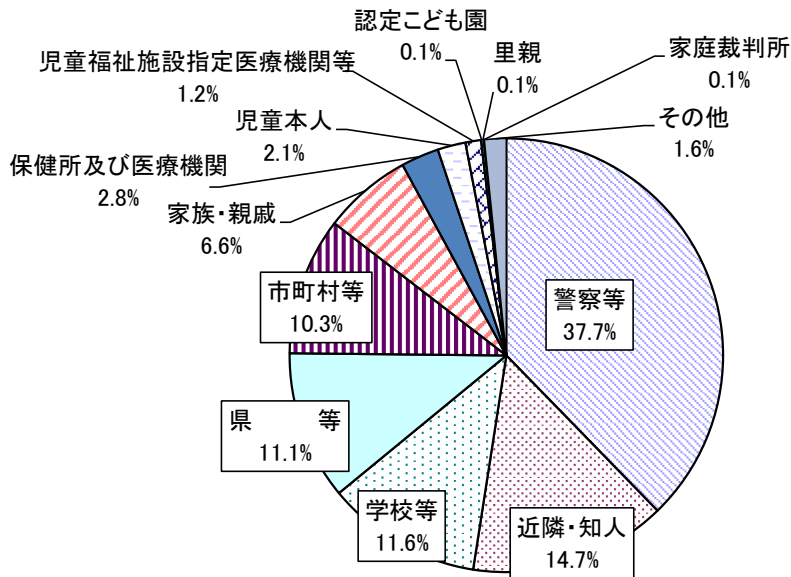


図4-3 虐待種別・年齢別状況

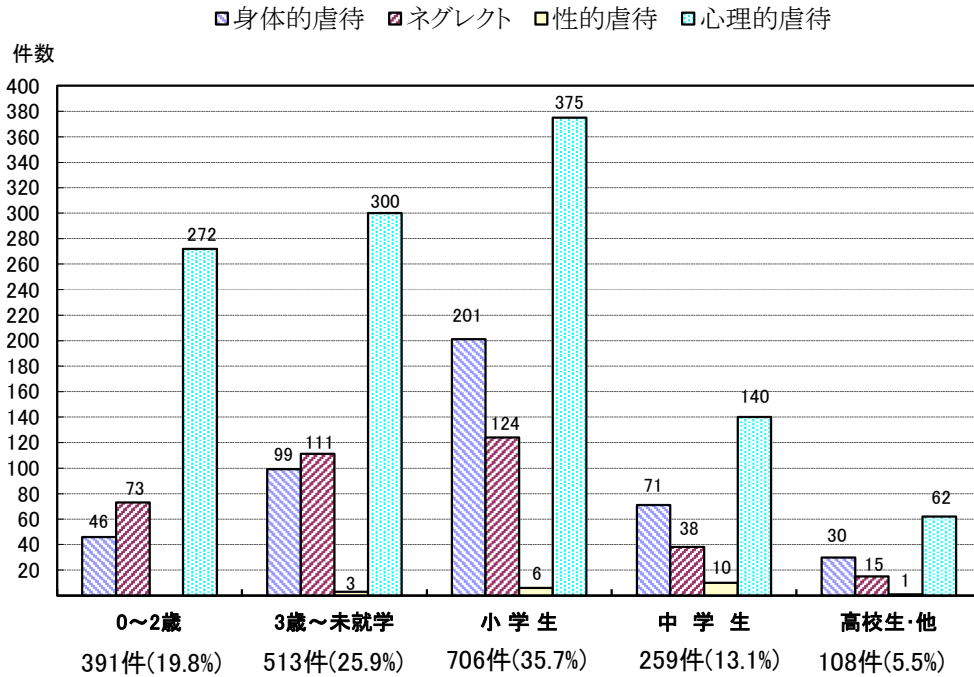


図4-4 主な虐待者

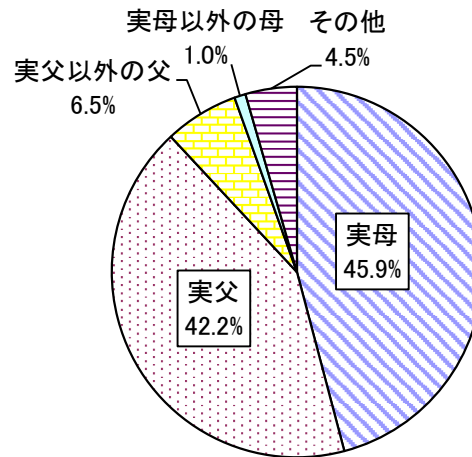


図4-5 援助の状況

